

座長／早稲田大学スポーツ科学学術院／赤間高雄  
／筑波大学体育系／宮川俊平

国立スポーツ科学センター（JISS）でオリンピック代表選手の派遣前メディカルチェックが実施されて10年が経過した。今までのメディカルチェックを総括して問題点を明らかにし、2020東京大会に向けての課題とその解決方法を考えるためにこのシンポジウムが企画された。5人のシンポジストにそれぞれの専門の立場から講演していただき、最後に総合討論を行った。

JISSの半谷先生には、メディカルチェックの整形外科のチェック項目と結果について報告していただいた。Active problemを持つ選手は夏期オリンピックではアテネ、北京、ロンドンと増加する傾向があるが、メディカルチェックを担当するドクターの評価基準が不明確との指摘があった。またこれらの情報をどのように現場の医療スタッフと共有していくかが今後の課題であることも述べていた。つぎに、JISSの蒲原先生に内科のチェック項目として、問診と検査の概要を紹介していただいた。チェック結果としては、肺機能検査と気管支喘息、月経異常、甲状腺機能異常、貧血、および増加傾向のアレルギー疾患などの特徴について発表があった。特に気管支喘息や甲状腺機能異常については問診や診察では見つけられなく、呼吸機能検査や血液の甲状腺ホルモンの測定をすることはじめてわかった異常もあることを指摘していた。東京医科歯科大学の上野先生には、歯科のチェック結果について、オリンピック代表候補選手における傾向をまとめていただいた。齲歯は減少傾向ではあるが、まだ一般人よりも多い。歯周病では侵襲性歯周炎に注意を要する。また、不正咬合が増加しており、ジュニア期での早期発見早期治療が望ましいことが強調された。基本的には歯のケアの仕方を啓蒙し、食生活も踏まえた上での指導の大切さを強調された。

JISSの亀井先生には、管理栄養士の立場からトッパアスリートのサプリメント使用状況と食意識の調査結果を発表していただいた。若年選手において、食意識が低く栄養バランスを心がけていない選手ではサプリメントの使用率が高いことから、食事指導の重要性を指摘され、JISSとナショナルトレーニングセンターの食堂における栄養評価システムを紹介していただいた。どこにいても「食べる選手」になるための指導の必要性を示唆された。最後に、JISSの立谷先生には、心理スタッフの立場から、メディカルチェックにおける心理的競技能力診断検査（DIPCA3）の紹介とその結果の概要について発表していただいた。ロンドンオリンピック代表選手とソチオリンピック代表選手において、それぞれの男女比較とメダリストの特徴についてまとめ、競技能力の高い選手は心理的競技能力も高いことが報告された。さらに、JISSにおける心理サポートの体制と実績についても発表があった。またこのようなことができる臨床心理士の不足も述べられ、今後の臨床心理士等の職種の養成も急務であることも指摘された。

総合討論としては、各シンポジストに、それぞれの専門領域からみたメディカルチェックの特徴と2020年にむけての課題をまとめていただき、それに対するディスカッションを行った。選手を総合的にサポートする体制作りがオリンピック選手だけではなく、ユース世代、ジュニアユース世代にまで拡大していくことが2020年に向けての課題であると考えられた。